農技第１５２３号
令和８年８月３日

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和８年度病害虫発生予報第４号を発表します。

令和８年度病害虫発生予報第４号

向こう１か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
水稲	いもち病（葉いもち）	平年並	平年並
	紋枯病	**やや多**	平年並
	セジロウンカ	平年並	平年並
	トビイロウンカ	平年並	平年並
	ヒメトビウンカ	平年並	平年並
	ツマグロヨコバイ	平年並	平年並
	斑点米カメムシ類	**やや多**	平年並
	イネツトムシ	平年並	平年並
	コブノメイガ	平年並	平年並
大豆	紫斑病	平年並	平年並
	べと病	平年並	平年並
	ハスモンヨトウ	**やや多**	平年並
	ハダニ類	**やや多**	平年並
	吸実性カメムシ類	**やや多**	平年並
野菜等共通	ヨトウガ	平年並	平年並
	ハスモンヨトウ	**やや多**	平年並
	シロイチモジヨトウ	**やや多**	平年並
	オオタバコガ	**やや多**	**やや多**
	ハイマダラノメイガ	平年並	平年並
果樹等共通	**果樹カメムシ類**	**やや多**	**やや多**

太文字の病害虫：向こう１カ月の間、発生状況に特に注意を要する病害虫を示す。

＊　気象の概況

近畿地方　１か月予報

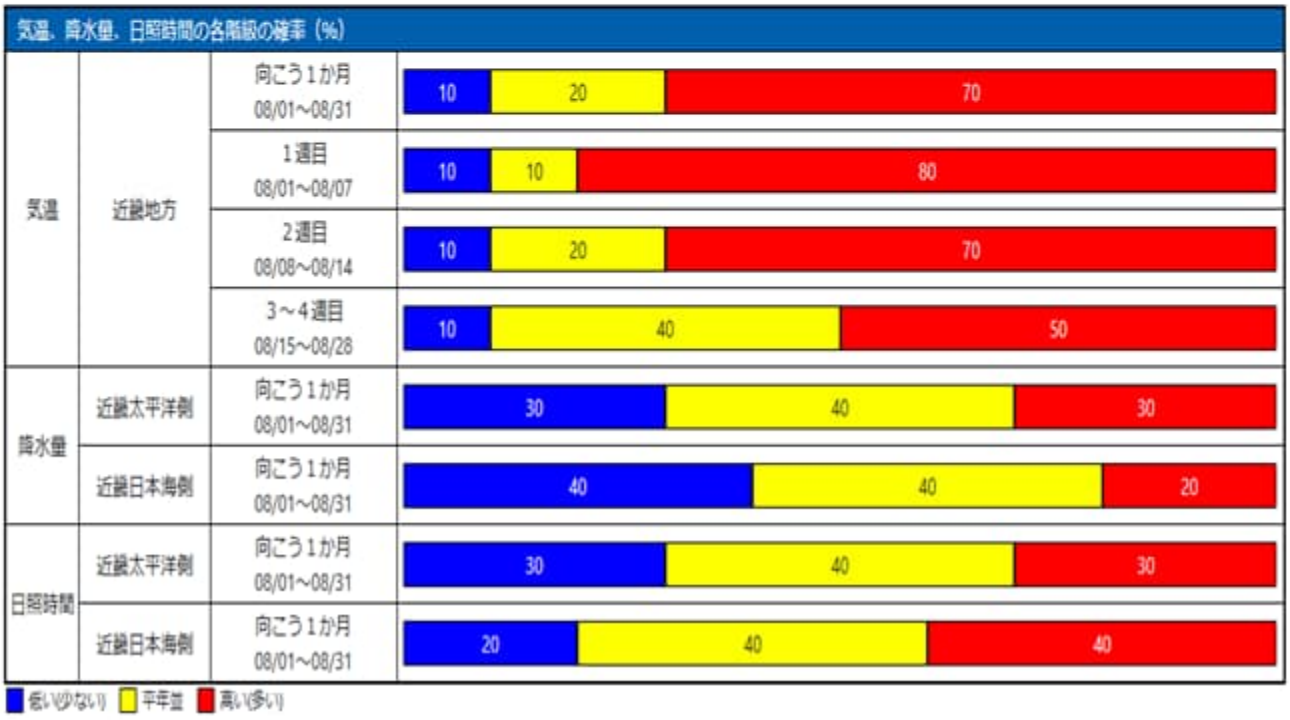
（８月１日から８月３１日までの天候見通し）

令和８年７月３０日

大阪管区気象台　発表

＜予想される向こう１か月の天候＞

近畿地方　1か月予報（08/01～08/31）		
2026年07月30日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 08/01～08/31	天候	近畿日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率７０％です。
	降水量	降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに４０％です。
	日照時間	日照時間は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに４０％です。
1週目 08/01～08/07	気温	1週目は、高い確率８０％です。
2週目 08/08～08/14	気温	2週目は、高い確率７０％です。
3～4週目 08/15～08/28	気温	3～4週目は、高い確率５０％です。



＊　発生概況及び防除対策上の留意点

根拠中の記号

（＋）：発生量を多くする要因

（－）：発生量を少なくする要因

（±）：発生量が平年並になる要因

水稲

1　【いもち病（葉いもち）】

（1）予想：発生量　　平年並

（2）根拠：発生現況　平年並（±）

気象予報　気温は高い（±）

降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）

（3）その他

5月22日より7月31日までの、いもち病（葉いもち）の感染好適条件の出現状況（BLASTAM情報；提供元JPP-NET）を、兵庫県病害虫防除所HPで公開している。

2　【紋枯病】

（1）予想：発生量　　**やや多**

（2）根拠：発生現況　平年並（±）

気象予報　気温は高い（＋）

降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）

（3）防除上の留意点

ア　農薬散布は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期から出穂期が適期である。散布は病患部の葉鞘によく付着するよう下位葉をねらって行うこと。

イ　薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

3　【セジロウンカ】

（1）予想：発生量　　平年並

（2）根拠：発生現況　平年並（±）

気象予報　気温は高い（＋）

降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）

4　【トビイロウンカ】

（1）予想：発生量　　平年並

（2）根拠：発生現況　平年並（発生見られず、予察灯への誘殺もなし）（－）

気象予報　気温は高い（＋）

5　【ヒメトビウンカ】

（1）予想：発生量　　平年並

（2）根拠：発生現況　平年並（±）

気象予報　気温は高い（＋）

降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）

6　【ツマグロヨコバイ】
（１）予想：発生量　　平年並
（２）根拠：発生現況　平年並、予察灯への誘殺は多い地域もある（±）
　　気象予報　気温は高い（＋）
7　【斑点米カメムシ類】
（１）予想：発生量　　**やや多**
（２）根拠：発生現況　平年並、予察灯への誘殺は多～少、
　　イネカメムシは多～やや多（±）
　　気象予報　気温は高い（＋）
（３）防除上の留意点
ア　出穂直前に畦畔の管理作業を行うと本虫を本田内に追い込むことになるため、出穂の２週間以上前に雑草管理作業を行う。また、水田内のヒエ等の雑草についても本種の誘引源となるため、速やかに除去する。
イ　イネカメムシの被害は、周辺より出穂期が早い圃場で起こりやすい。また、そのような圃場の隣接圃場では出穂が遅い場合も被害を受けやすいため、適切な防除を行う。さらにイネカメムシは出穂直後から穂を加害して不稔穂を発生させるなど収量への影響が大きいため、圃場内に発生が見られる場合は薬剤防除を検討する。
ウ　その他の斑点米カメムシ類の薬剤防除は、穂揃期から乳熟期にかけて行い、その後も発生が多い場合は７～10日間隔で１～２回の追加防除を行う。
エ　薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。
8　【イネツトムシ】
（１）予想：発生量　　平年並
（２）根拠：発生現況　平年並（±）
　　気象予報　気温は高い（＋）
9　【コブノメイガ】
（１）予想：発生量　　平年並
（２）根拠：発生現況　平年並（±）
　　気象予報　気温は高い（＋）

大豆
1　【紫斑病】
（１）予想：発生量　　平年並
（２）根拠：発生現況　平年並（発生見られず）（－）
　　気象予報　気温は高い（＋）
　　降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）

2　【べと病】
（１）予想：発生量　　平年並

（２）根拠：発生現況　平年並（発生見られず）（－）
　　気象予報　気温は高い（－）
　　降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）

３　【ハスモンヨトウ】

（１）予想：発生量　**やや多**

（２）根拠：発生現況　平年並（±）
　　フェロモントラップへの誘殺数はやや多～やや少（±）
　　気象予報　気温は高い（＋）
　　降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）

（３）防除上の留意点

ア　卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

イ　中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢期の防除を徹底する。

ウ　薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考にし、農薬使用基準を遵守する。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

４　【ハダニ類】

（１）予想：発生量　**やや多**

（２）根拠：発生現況　平年並（±）
　　気象予報　気温は高い（＋）
　　降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）

（３）防除上の留意点

ア　薬剤散布を行う場合は、薬液がハダニ類の生息している葉の裏に十分かかるように行うこと。

イ　薬剤防除は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。

５　【吸実性カメムシ類】

（１）予想：発生量　**やや多**

（２）根拠：発生現況　平年並（±）
　　気象予報　気温は高い（＋）

（３）防除上の留意点

ア　着莢期に成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、卵からふ化した幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続けるため、薬剤散布は着莢期から10日間隔で2～3回実施する。

イ　薬剤防除は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。

野菜等共通

１　【ヨトウガ】

（１）予想：発生量　　平年並
（２）根拠：発生現況　フェロモントラップへの誘殺数は平年並（±）
　　気象予報　気温は高い（＋）

２　【ハスモンヨトウ】

（１）予想：発生量　　**やや多**
（２）根拠：発生現況　フェロモントラップへの誘殺数はやや多～やや少（±）
　　気象予報　気温は高い（＋）
　　降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）
（３）防除上の留意点
ア　本種の幼虫は、ピーマン、ナス、キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。
イ　卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。
ウ　中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
エ　薬剤防除は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。

３　【シロイチモジヨトウ】

（１）予想：発生量　　**やや多**
（２）根拠：発生現況　フェロモントラップへの誘殺数は平年並（±）
　　気象予報　気温は高い（＋）
　　降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）
（３）防除上の留意点
ア　本種の加害植物は、ネギ、キャベツ、ピーマン、ナス、をはじめ多くの野菜類のほか、豆類、花き類など広い範囲に及ぶ。
イ　本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意する。
ウ　薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針、防除情報等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

４　【オオタバコガ】

（１）予想：発生量　　**やや多**
（２）根拠：発生現況　フェロモントラップへの誘殺数はやや多（＋）
　　気象予報　気温は高い（＋）
　　降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）
（３）防除上の留意点
ア　本種の加害植物は、ピーマン、ナス、トウモロコシをはじめ多くの野菜類のほか、花き類など広い範囲に及ぶ。
イ　果実や花蕾に穿入した幼虫及び中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
ウ　成虫の産卵、飛来防止による防除手法として、防虫ネット、黄色灯、性フェ

ロモン製剤がある。

エ　薬剤防除は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。

5　【ハイマダラノメイガ】

（１）予想：発生量　　平年並

（２）根拠：発生現況　誘致植物＊（クレオメ）での発生量は平年並（±）

気象予報　気温は高い（＋）

降水量は太平洋側 平年並、日本海側 平年並～少ない（±）

＊対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調査するために用いられる。

果樹等共通

1　【果樹カメムシ類】

（１）予想：発生量　　**やや多**

（２）根拠：発生現況　予察灯、フェロモントラップへの誘殺数は多～平年並（＋）

気象予報　気温は高い（＋）

その他　　チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は発生が多い年に該当する。

（３）防除上の留意点

ア　飛来状況は地域や園地で異なるため、定期的に園を見回り、飛来状況の把握に努める。袋かけをしていても、果実が肥大して袋に接すると、被害を受けることがあるので注意する。

イ　発生や被害を認めたら速やかに防除する。

ウ　薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

エ　防除についての詳細は令和８年度病害虫発生予察注意報第１号（令和８年５月20日発出、https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1621）を参考とする。

防除にあたっては病害虫・雑草防除指導指針の内容のほか、兵庫県総合防除計画を参照してください。

＊兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html

＊病害虫・雑草防除指導指針 農薬の検索は以下のURLに掲載

https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/noyakusearch/hyogo

＊病害虫・雑草防除指導指針 参考資料は以下のURLに掲載

https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo

＊この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。
https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/

兵庫県病害虫防除所　０７９０－４７－１２２２

「兵庫県病害虫防除所」Ｘ(旧Twitter)にて情報発信中。
発生予察情報など病害虫に関する情報をいち早く
提供しますので、フォローお願いします。
Ｘアカウント（https://x.com/hyogo_boujosho）